

# 平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査

## 集計結果の概要

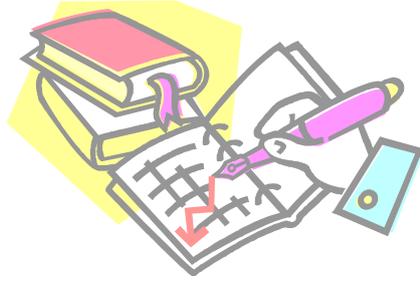
平成22年12月

日本私立短期大学協会  
就職問題委員会

\* 本「調査結果の概要」は、平成22年度私立短大就職担当者研修会別冊資料として配布した「平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 報告書」の中から抜粋して編集したものです。

# 目 次

	頁
調査の概要	1
平成元年度～平成21年度における就職決定率の推移	3
卒業生の進路状況	4
就職決定者の状況	5
平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果	
1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	6
2 分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	8
3 地域別・分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	10
4 地域別の就職以外の進路者数	13
5 分野別の就職以外の進路者数	13
6 地域別・分野別の就職以外の進路者数	14
<b>* 一般企業関係における地域別雇用形態の状況</b>	17
一般企業関係のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど(意見の概要)	18
<b>* 幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況</b>	22
幼稚園教諭のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど(意見の概要)	24
<b>* 保育士の地域別雇用形態の状況</b>	26
保育士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど(意見の概要)	28
<b>* 栄養士の地域別雇用形態の状況</b>	30
栄養士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど(意見の概要)	32
<b>* 介護福祉士の地域別雇用形態の状況</b>	34
介護福祉士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど(意見の概要)	36
<b>* その他の国家資格を必要とする専門職の雇用形態の状況</b>	37
<b>* 公務員の地域別雇用形態の状況</b>	38
付・調査紙(縮小版)	39



## 調査の概要

### 1) 調査の目的

毎年度、日本私立短期大学協会に加盟の全会員短大を対象に卒業後の状況調査を実施することより、地域別並びに分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数・就職以外の進路者数等について把握し、今後の私立短期大学におけるよりよい就職支援を模索するための基礎資料とする。

なお、昨年度に引き続き、短期大学卒業生の雇用形態の状況を把握するため、就職決定者の正規雇用、非正規雇用の具体的人数を調査し、その結果から、近年特に問題視されている労働条件、処遇等に対する喫緊の課題に取り組む資料とする。

### 2) 調査対象

日本私立短期大学協会加盟の352短大のうち、第2部(夜間部)のみ設置の4短大および新設短大・調査対象外の6校を除く342短大の第1部(昼間部)。

### 3) 調査方法

郵送法。事務局より、調査用紙(表題「平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」)を各短大学長あて調査依頼状とともに発送し、回答を求めた。

### 4) 調査時期

平成22年5月1日～5月28日

### 5) 集計回答校数

集計回答校数は、342短大中、333短大。(回答率 97.4%)

(参考)	平成元年度卒業生	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
調査対象校	464	471	481	484	489
回答校数	405	410	431	454	467
回答率(%)	87.3	87.0	89.6	93.8	95.5
	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
調査対象校	491	488	490	485	484
回答校数	454	458	458	460	449
回答率(%)	92.5	93.9	93.5	94.8	92.8
	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
調査対象校	470	457	442	428	405
回答校数	447	435	414	406	402
回答率(%)	95.1	95.2	93.7	95.0	99.3
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
調査対象校	391	376	366	357	350
回答校数	386	368	360	327	326
回答率(%)	98.7	97.9	98.4	91.6	93.1
	平成21年度				
調査対象校	342				
回答校数	333				
回答率(%)	97.4				

## 6) 集計件数

就職決定者の各集計件数は、下記の通り。

	一般企業	公務員	幼稚園教諭	保育士	栄養士	介護福祉士	その他の 専門職
北海道	36	18	10	11	4	2	7
東北	30	20	16	16	8	6	2
関東	86	24	41	41	12	12	25
東京	69	23	11	11	13	5	9
中部	90	30	33	31	18	18	27
近畿	64	15	26	29	7	10	12
大阪	50	9	18	19	6	11	8
中国	43	16	16	17	8	4	9
四国	26	11	9	9	8	4	3
九州	81	33	32	32	17	15	17

## 7) 地域の分類

地域の表記については、本協会の支部の区分による下記 9 ブロックとする。

なお、各地域の当該県は次の通り。

### 北海道

東北 …青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

関東 …茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨

### 東京

中部 …富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重

近畿 …滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山

### 大阪

中四国 (中国)…鳥取、岡山、広島、山口 (四国)…徳島、香川、愛媛、高知

九州 …福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

## 8) 報告書作成にあたって

回答のあった調査票1および調査票2の集計について、調査票1は、コンピュータ集計により得られた結果を基に作表した。また、調査票2については、就職問題委員会委員により、各項目ごとに分担して記述内容を一覧にしたうえで、まとめを行った。

## 平成元年度～平成21年度における就職決定率の推移

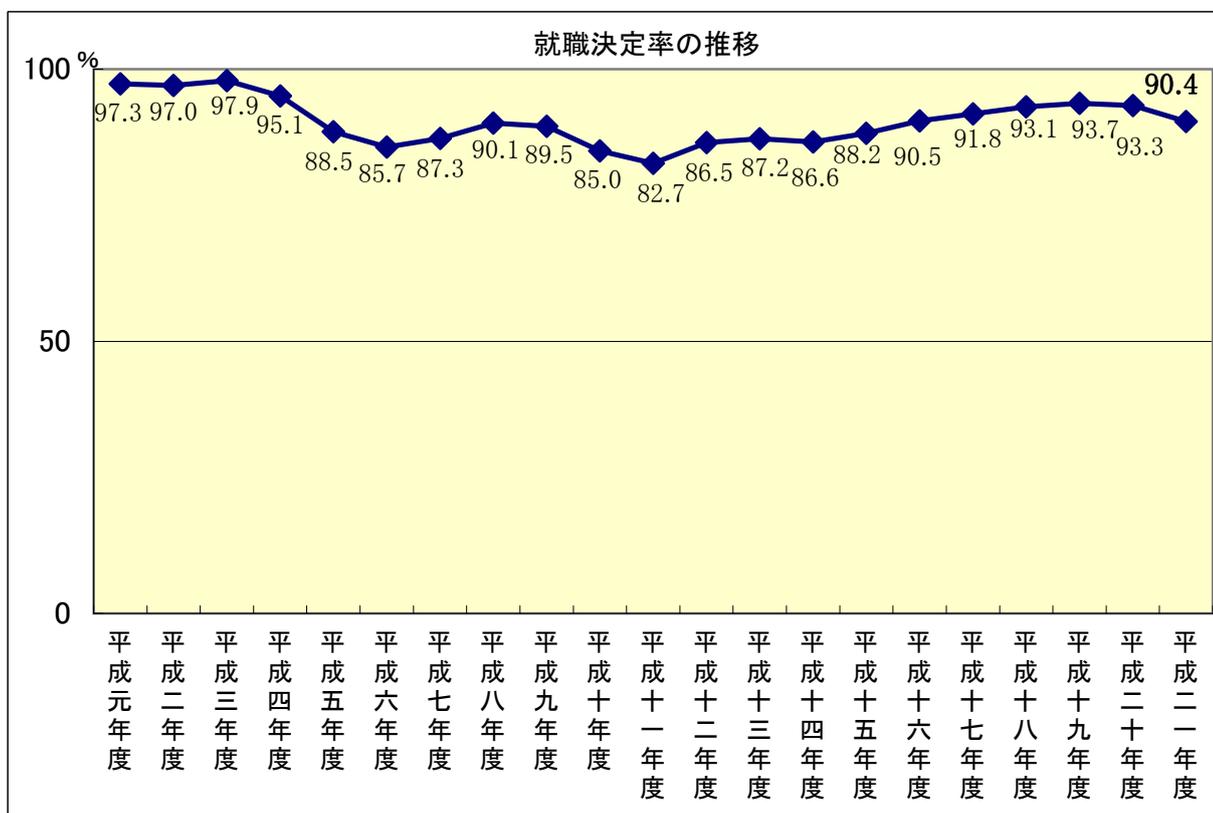
当該年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度
	平成2年3月卒	平成3年3月卒	平成4年3月卒	平成5年3月卒	平成6年3月卒
就職決定率	97.3	97.0	97.9	95.1	88.5

当該年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
	平成7年3月卒	平成8年3月卒	平成9年3月卒	平成10年3月卒	平成11年3月卒
就職決定率	85.7	87.3	90.1	89.5	85.0

当該年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
	平成12年3月卒	平成13年3月卒	平成14年3月卒	平成15年3月卒	平成16年3月卒
就職決定率	82.7	86.5	87.2	86.6	88.2

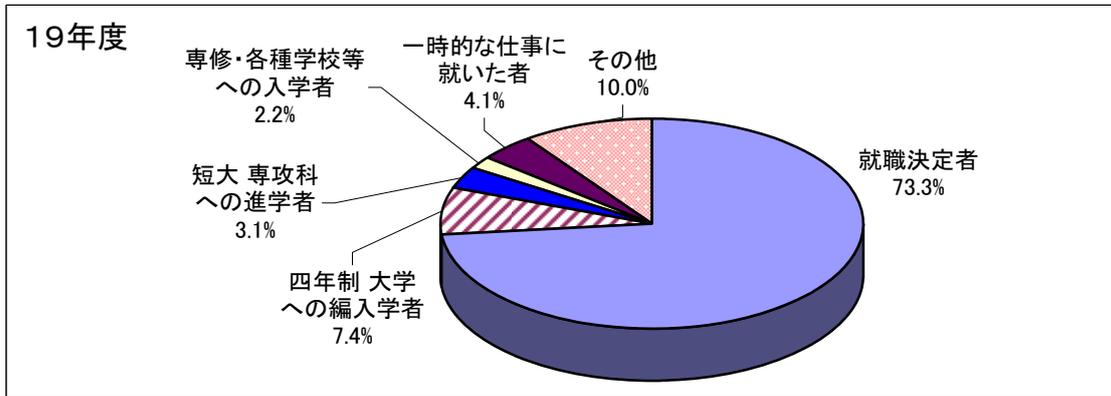
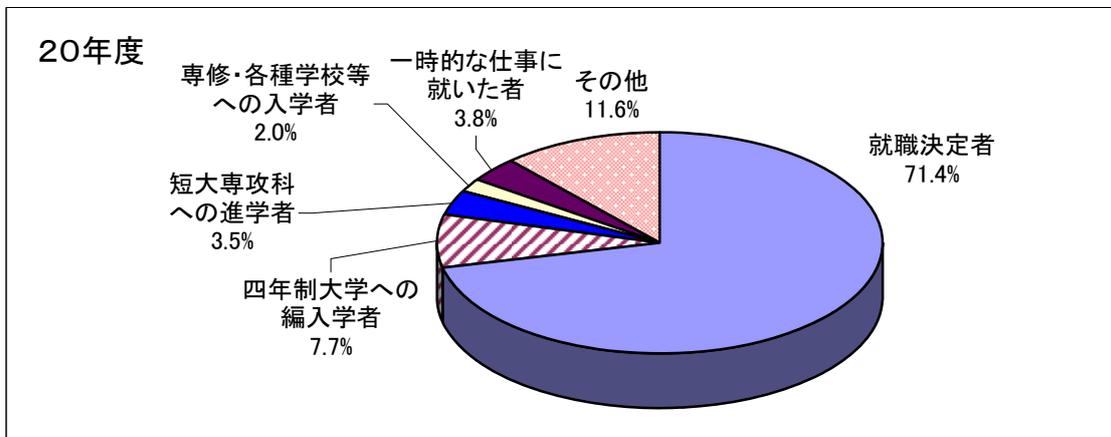
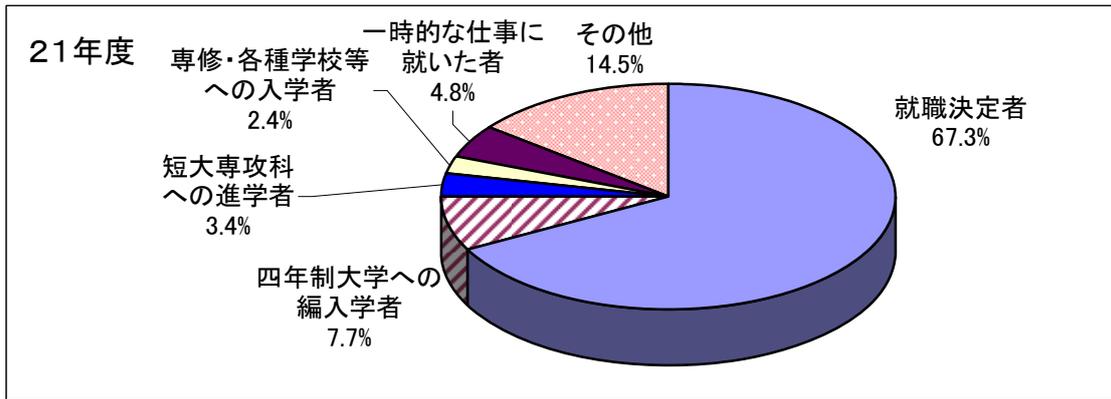
当該年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	平成17年3月卒	平成18年3月卒	平成19年3月卒	平成20年3月卒	平成21年3月卒
就職決定率	90.5	91.8	93.1	93.7	93.3

当該年度	平成21年度
	平成22年3月卒
就職決定率	90.4



※ 就職決定率は、就職希望者数に対する就職決定者数の割合。

## 卒業生の進路状況

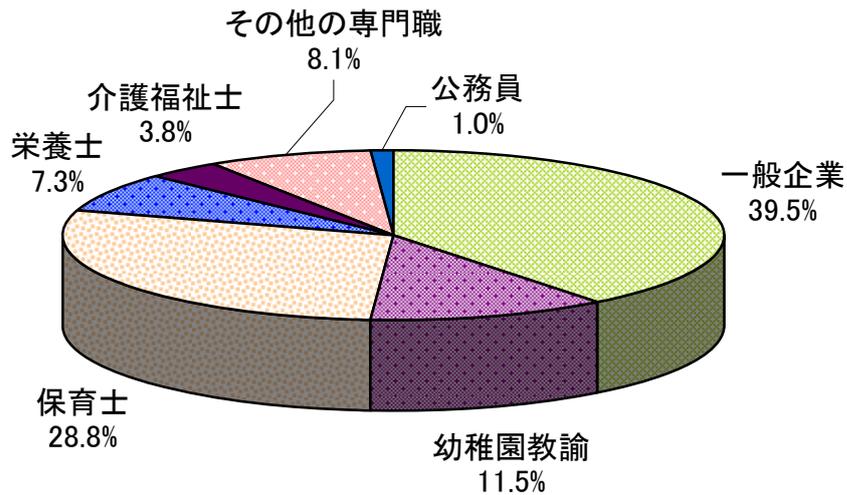


	卒業生数	就職決定者	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他
21年度	62,988	42,384	4,853	2,111	1,483	3,028	9,129
20年度	66,887	47,789	5,178	2,355	1,322	2,517	7,726
19年度	71,395	52,337	5,254	2,216	1,542	2,897	7,149

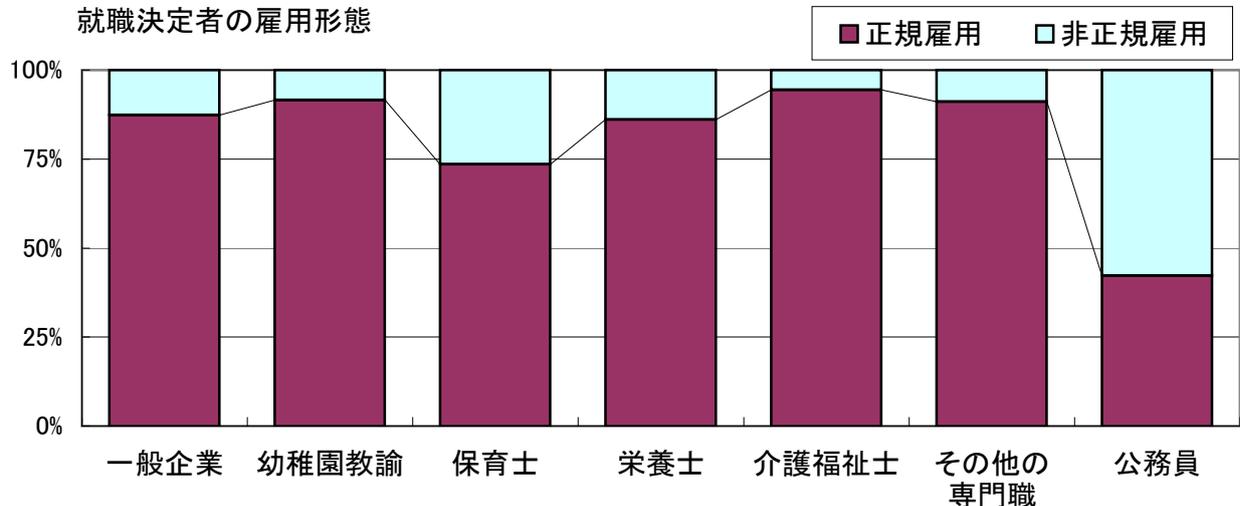
## 就職決定者の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
一般企業	16,751	14,627	2,124	87.3%
幼稚園教諭	4,891	4,477	414	91.5%
保育士	12,201	8,970	3,231	73.5%
栄養士	3,091	2,661	430	86.1%
介護福祉士	1,590	1,502	88	94.5%
その他の専門職	3,429	3,124	305	91.1%
公務員	431	182	249	42.2%
計	42,384	35,543	6,841	83.9%

就職決定者の内訳



就職決定者の雇用形態



## 平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果

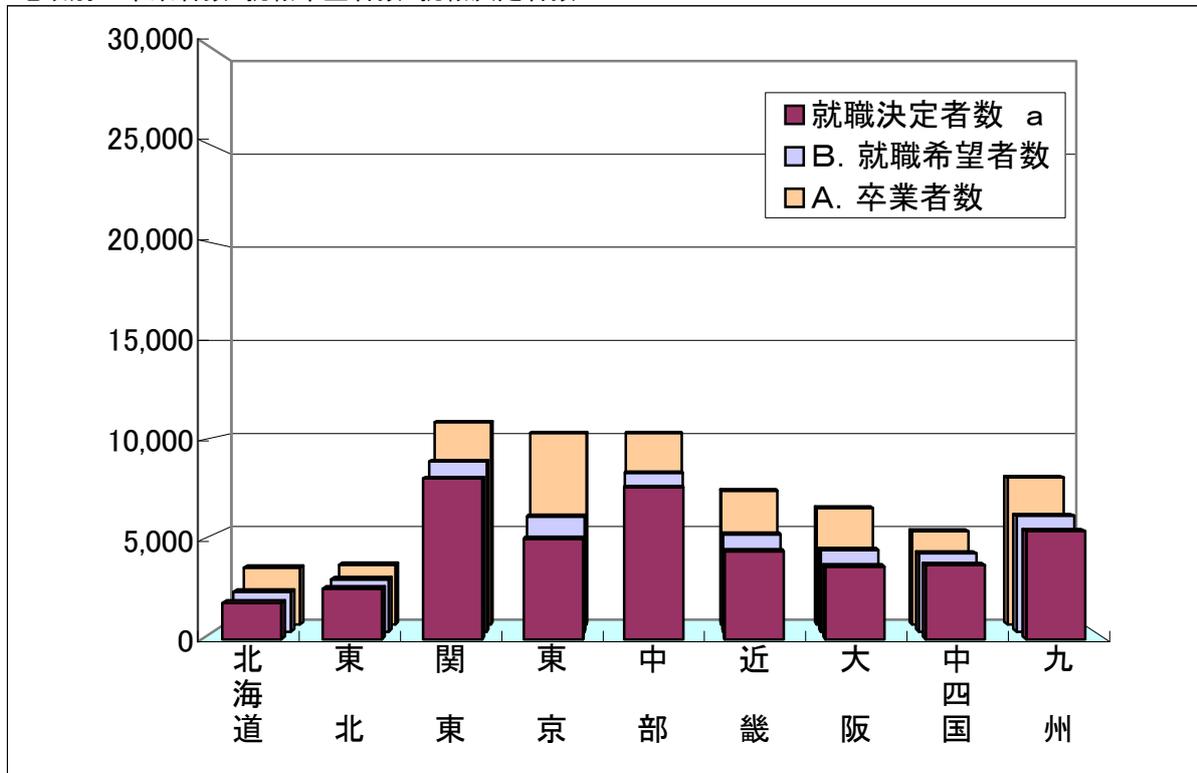
### 1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

	A. 卒業生数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職率 a/A (%)
全 国	62,988	46,877	42,384	74.4	90.4	67.3
北海道	2,997	2,060	1,832	68.7	88.9	61.1
東 北	3,152	2,695	2,545	85.5	94.4	80.7
関 東	10,688	8,780	8,077	82.1	92.0	75.6
東 京	10,119	5,934	5,050	58.6	85.1	49.9
中 部	10,108	8,177	7,631	80.9	93.3	75.5
近 畿	7,066	5,011	4,427	70.9	88.3	62.7
大 阪	6,156	4,208	3,653	68.4	86.8	59.3
中四国	4,927	4,036	3,723	81.9	92.2	75.6
中 国	3,385	2,742	2,531	81.0	92.3	74.8
四 国	1,542	1,294	1,192	83.9	92.1	77.3
九 州	7,775	5,976	5,446	76.9	91.1	70.0

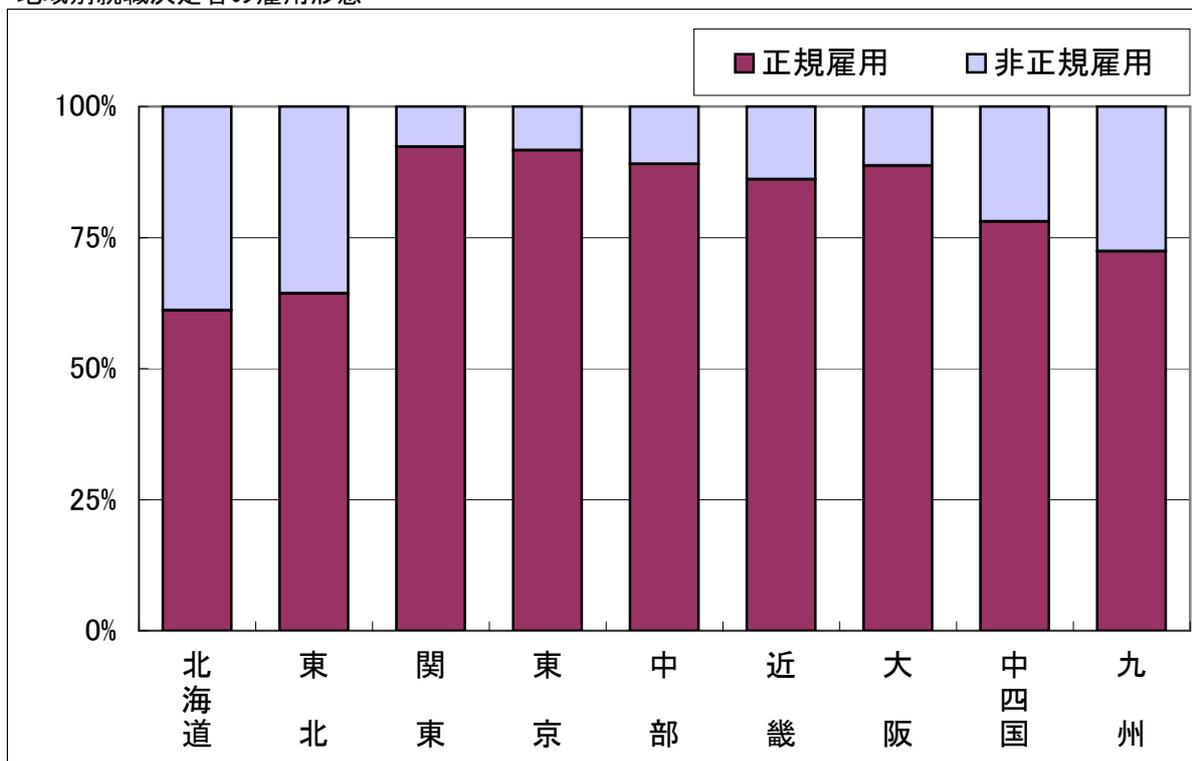
### 地域別就職決定者の雇用形態別内訳

	就職決定者数	正 規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規雇用率
全 国	42,384	35,543	6,841	83.9%
北 海 道	1,832	1,120	712	61.1%
東 北	2,545	1,638	907	64.4%
関 東	8,077	7,456	621	92.3%
東 京	5,050	4,629	421	91.7%
中 部	7,631	6,796	835	89.1%
近 畿	4,427	3,813	614	86.1%
大 阪	3,653	3,241	412	88.7%
中 四 国	3,723	2,907	816	78.1%
中 国	2,531	2,015	516	79.6%
四 国	1,192	892	300	74.8%
九 州	5,446	3,943	1,503	72.4%

地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数



地域別就職決定者の雇用形態



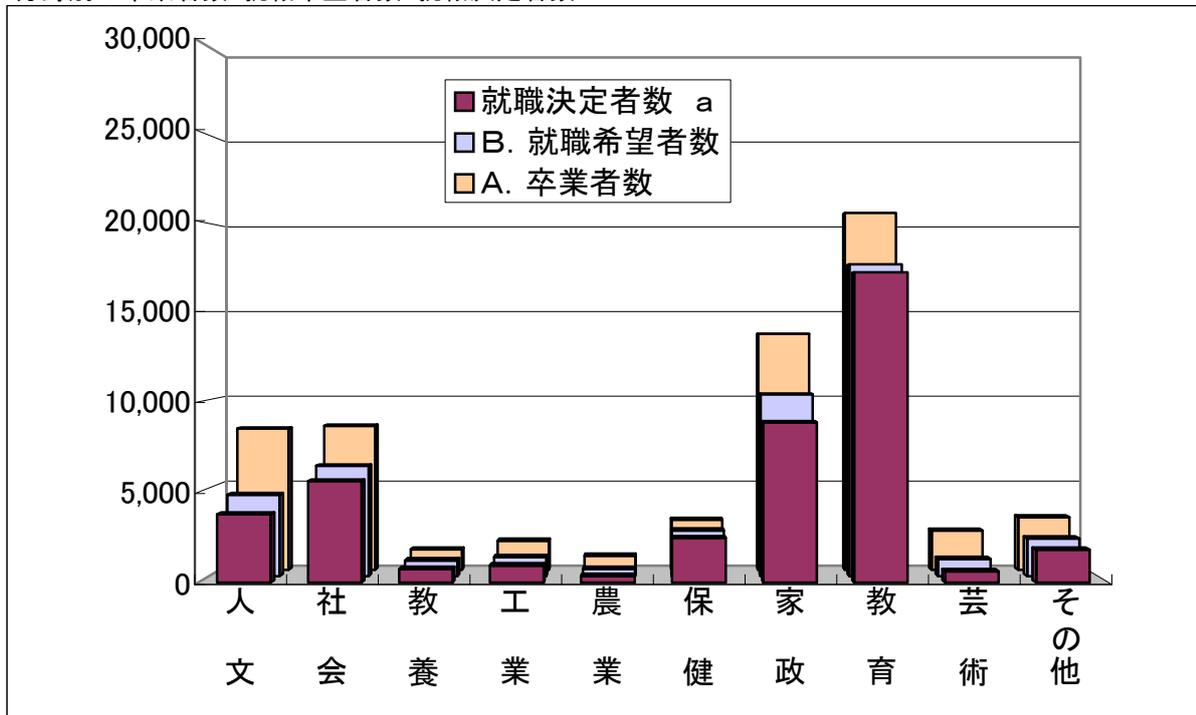
## 2 分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数

	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職率 a/A (%)
全国	62,988	46,877	42,384	74.4	90.4	67.3
人文	8,215	4,615	3,770	56.2	81.7	45.9
社会	8,371	6,250	5,622	74.7	90.0	67.2
教養	1,183	886	745	74.9	84.1	63.0
工業	1,699	1,072	935	63.1	87.2	55.0
農業	825	399	356	48.4	89.2	43.2
保健	2,915	2,581	2,462	88.5	95.4	84.5
家政	13,699	10,304	8,874	75.2	86.1	64.8
教育	20,733	17,671	17,181	85.2	97.2	82.9
芸術	2,284	970	622	42.5	64.1	27.2
その他	3,064	2,129	1,817	69.5	85.3	59.3

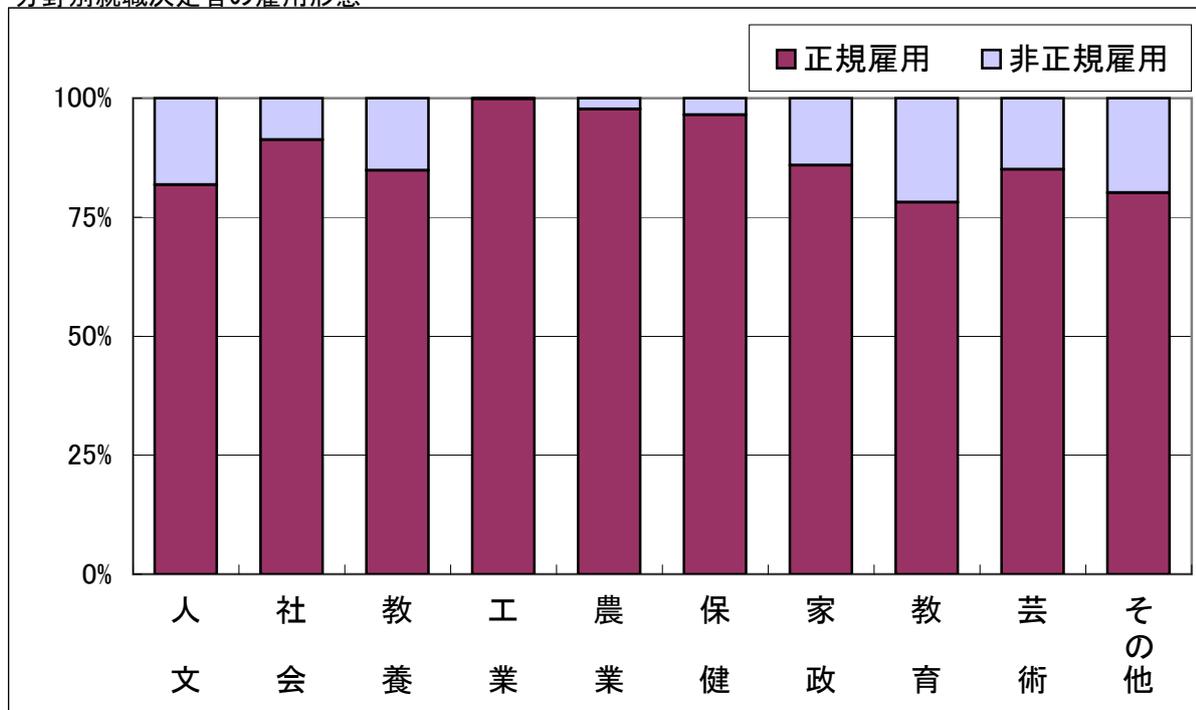
### 分野別就職決定者の雇用形態別内訳

	就職決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規雇用率
全国	42,384	35,543	6,841	83.9%
人文	3,770	3,086	684	81.9%
社会	5,622	5,130	492	91.2%
教養	745	632	113	84.8%
工業	935	934	1	99.9%
農業	356	348	8	97.8%
保健	2,462	2,376	86	96.5%
家政	8,874	7,624	1,250	85.9%
教育	17,181	13,428	3,753	78.2%
芸術	622	529	93	85.0%
その他	1,817	1,456	361	80.1%

分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数



分野別就職決定者の雇用形態



### 3 地域別・分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職率 a/A (%)
北海道	人文	437	256	207	58.6	80.9	47.4
	社会	367	190	162	51.8	85.3	44.1
	教養	283	192	146	67.8	76.0	51.6
	工業	175	106	97	60.6	91.5	55.4
	農業	145	88	85	60.7	96.6	58.6
	家政	489	406	344	83.0	84.7	70.3
	教育	867	728	719	84.0	98.8	82.9
	芸術	111	32	24	28.8	75.0	21.6
	その他	123	62	48	50.4	77.4	39.0
	小計	2,997	2,060	1,832	68.7	88.9	61.1
東北	人文	270	194	165	71.9	85.1	61.1
	社会	339	327	312	96.5	95.4	92.0
	保健	138	110	106	79.7	96.4	76.8
	家政	866	725	678	83.7	93.5	78.3
	教育	1,344	1,172	1,139	87.2	97.2	84.7
	芸術	28	20	17	71.4	85.0	60.7
	その他	167	147	128	88.0	87.1	76.6
	小計	3,152	2,695	2,545	85.5	94.4	80.7
関東	人文	1,076	627	490	58.3	78.1	45.5
	社会	2,116	1,727	1,574	81.6	91.1	74.4
	教養	144	139	121	96.5	87.1	84.0
	工業	273	234	178	85.7	76.1	65.2
	保健	1,062	952	928	89.6	97.5	87.4
	家政	1,322	1,054	928	79.7	88.0	70.2
	教育	3,975	3,608	3,515	90.8	97.4	88.4
	芸術	278	112	56	40.3	50.0	20.1
	その他	442	327	287	74.0	87.8	64.9
	小計	10,688	8,780	8,077	82.1	92.0	75.6

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職率 a/A (%)
東京	人文	2,308	1,202	956	52.1	79.5	41.4
	社会	1,696	1,109	971	65.4	87.6	57.3
	教養	170	89	76	52.4	85.4	44.7
	工業	191	40	32	20.9	80.0	16.8
	農業	561	221	182	39.4	82.4	32.4
	保健	399	341	341	85.5	100.0	85.5
	家政	2,915	1,874	1,527	64.3	81.5	52.4
	教育	1,422	908	862	63.9	94.9	60.6
	芸術	457	150	103	32.8	68.7	22.5
	小計	10,119	5,934	5,050	58.6	85.1	49.9
中部	人文	664	468	400	70.5	85.5	60.2
	社会	1,539	1,232	1,149	80.1	93.3	74.7
	教養	142	123	112	86.6	91.1	78.9
	工業	595	422	397	70.9	94.1	66.7
	保健	354	334	328	94.4	98.2	92.7
	家政	2,092	1,677	1,520	80.2	90.6	72.7
	教育	3,428	3,033	2,994	88.5	98.7	87.3
	芸術	261	157	82	60.2	52.2	31.4
	その他	1,033	731	649	70.8	88.8	62.8
	小計	10,108	8,177	7,631	80.9	93.3	75.5
近畿	人文	1,068	644	572	60.3	88.8	53.6
	社会	826	530	488	64.2	92.1	59.1
	工業	91	70	55	76.9	78.6	60.4
	農業	32	29	28	90.6	96.6	87.5
	保健	163	150	107	92.0	71.3	65.6
	家政	1,715	1,161	957	67.7	82.4	55.8
	教育	2,491	1,998	1,922	80.2	96.2	77.2
	芸術	340	184	107	54.1	58.2	31.5
	その他	340	245	191	72.1	78.0	56.2
	小計	7,066	5,011	4,427	70.9	88.3	62.7

地域	分野	A. 卒業者数	B. 就職希望者数	就職決定者数 a	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職率 a/A (%)
大阪	人文	1,530	627	485	41.0	77.4	31.7
	社会	434	373	313	85.9	83.9	72.1
	教養	92	68	53	73.9	77.9	57.6
	工業	139	68	55	48.9	80.9	39.6
	保健	301	271	252	90.0	93.0	83.7
	家政	1,316	938	726	71.3	77.4	55.2
	教育	1,946	1,676	1,623	86.1	96.8	83.4
	芸術	216	52	33	24.1	63.5	15.3
	その他	182	135	113	74.2	83.7	62.1
	小計	6,156	4,208	3,653	68.4	86.8	59.3
中四国	人文	176	129	110	73.3	85.3	62.5
	社会	514	427	387	83.1	90.6	75.3
	工業	165	115	106	69.7	92.2	64.2
	保健	399	338	332	84.7	98.2	83.2
	家政	1,285	1,038	913	80.8	88.0	71.1
	教育	1,960	1,738	1,684	88.7	96.9	85.9
	芸術	284	148	115	52.1	77.7	40.5
	その他	144	103	76	71.5	73.8	52.8
	小計	4,927	4,036	3,723	81.9	92.2	75.6
九州	人文	686	468	385	68.2	82.3	56.1
	社会	540	335	266	62.0	79.4	49.3
	教養	352	275	237	78.1	86.2	67.3
	工業	70	17	15	24.3	88.2	21.4
	農業	87	61	61	70.1	100.0	70.1
	保健	99	85	68	85.9	80.0	68.7
	家政	1,699	1,431	1,281	84.2	89.5	75.4
	教育	3,300	2,810	2,723	85.2	96.9	82.5
	芸術	309	115	85	37.2	73.9	27.5
	その他	633	379	325	59.9	85.8	51.3
	小計	7,775	5,976	5,446	76.9	91.1	70.0
合計	62,988	46,877	42,384	74.4	90.4	67.3	

#### 4 地域別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全国	4,853	2,111	1,483	3,028	9,129	20,604
北海道	409	121	80	100	455	1,165
東北	88	138	48	58	275	607
関東	492	211	144	355	1,409	2,611
東京	1,489	587	395	759	1,839	5,069
中部	378	340	178	311	1,270	2,477
近畿	608	253	222	628	928	2,639
大阪	644	38	192	419	1,210	2,503
中四国	241	159	75	137	592	1,204
九州	504	264	149	261	1,151	2,329

#### 5 分野別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全国	4,853	2,111	1,483	3,028	9,129	20,604
人文	1,478	185	395	602	1,785	4,445
社会	815	76	144	373	1,341	2,749
教養	113	23	26	69	207	438
工業	276	122	32	26	308	764
農業	264	6	27	51	121	469
保健	76	129	24	5	219	453
家政	678	213	445	915	2,574	4,825
教育	627	1,018	179	516	1,212	3,552
芸術	283	333	101	261	684	1,662
その他	243	6	110	210	678	1,247

6 地域別・分野別の就職以外の進路者数

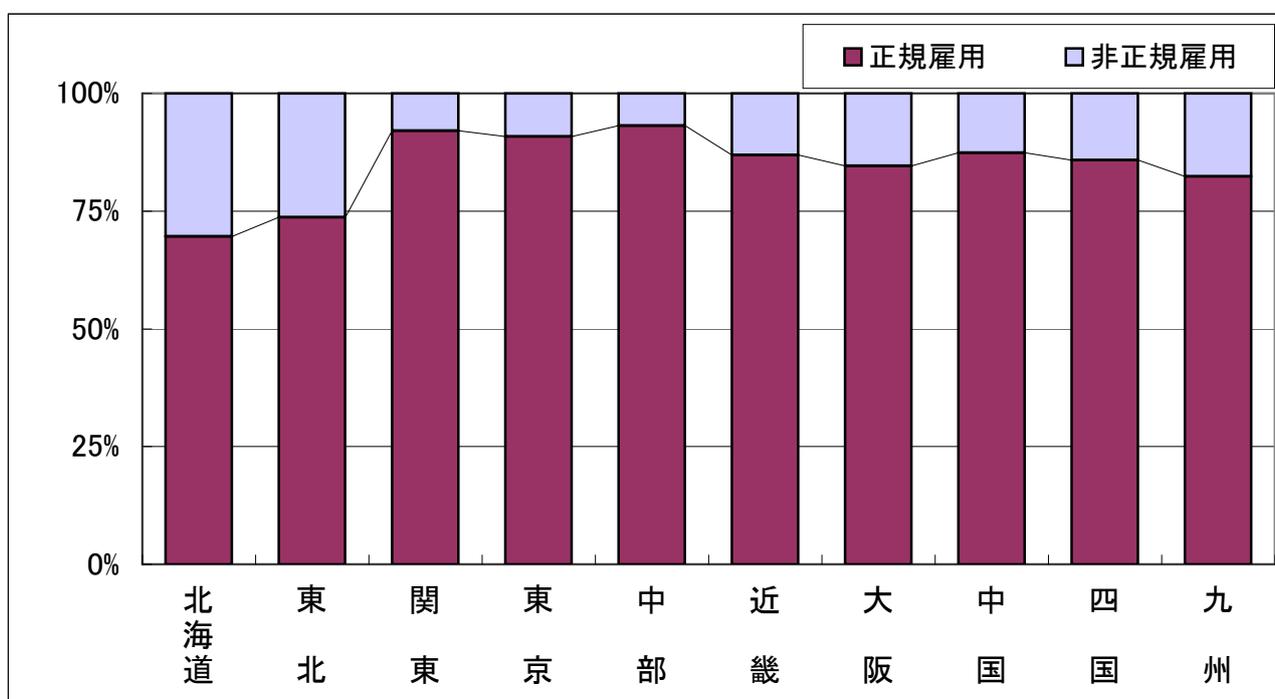
地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
北海道	人文	92	0	19	12	107	230
	社会	135	0	6	4	60	205
	教養	60	0	5	22	50	137
	工業	7	25	7	13	26	78
	農業	32	0	4	2	22	60
	家政	28	1	14	11	91	145
	教育	26	50	12	12	48	148
	芸術	10	45	6	11	15	87
	その他	19	0	7	13	36	75
	小計	409	121	80	100	455	1,165
東北	人文	20	9	13	9	54	105
	社会	5	0	1	5	16	27
	保健	4	18	5	0	5	32
	家政	30	16	13	15	114	188
	教育	25	95	5	20	60	205
	芸術	3	0	1	0	7	11
	その他	1	0	10	9	19	39
	小計	88	138	48	58	275	607
関東	人文	196	0	40	93	257	586
	社会	76	39	15	92	320	542
	教養	1	0	2	0	20	23
	工業	6	7	1	0	81	95
	保健	27	52	6	1	48	134
	家政	40	13	31	69	241	394
	教育	56	89	29	80	206	460
	芸術	42	5	15	0	160	222
	その他	48	6	5	20	76	155
	小計	492	211	144	355	1,409	2,611

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
東京	人文	362	134	119	195	542	1,352
	社会	228	2	51	119	325	725
	教養	32	20	1	10	31	94
	工業	104	0	4	4	47	159
	農業	213	5	20	49	92	379
	保健	11	29	7	0	11	58
	家政	269	107	140	287	585	1,388
	教育	174	218	23	62	83	560
	芸術	96	72	30	33	123	354
	小計	1,489	587	395	759	1,839	5,069
中部	人文	70	8	24	50	112	264
	社会	64	32	22	28	244	390
	教養	4	0	1	7	18	30
	工業	51	60	3	0	84	198
	保健	4	8	1	0	13	26
	家政	57	39	54	65	357	572
	教育	54	158	22	50	150	434
	芸術	6	35	7	41	90	179
	その他	68	0	44	70	202	384
	小計	378	340	178	311	1,270	2,477
近畿	人文	164	31	39	84	178	496
	社会	165	2	23	64	84	338
	工業	28	6	2	0	0	36
	農業	0	0	3	0	1	4
	保健	3	0	2	0	51	56
	家政	95	8	85	251	319	758
	教育	130	129	38	123	149	569
	芸術	15	77	18	61	62	233
	その他	8	0	12	45	84	149
	小計	608	253	222	628	928	2,639

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
大阪	人文	455	0	108	103	379	1,045
	社会	16	0	3	19	83	121
	教養	2	3	6	5	23	39
	工業	33	0	2	6	43	84
	保健	7	1	3	3	35	49
	家政	34	1	46	138	371	590
	教育	49	10	12	65	187	323
	芸術	39	23	8	75	38	183
	その他	9	0	4	5	51	69
	小計	644	38	192	419	1,210	2,503
中 四 国	人文	13	1	6	5	41	66
	社会	34	0	10	7	76	127
	工業	12	24	5	3	15	59
	保健	16	12	0	1	38	67
	家政	53	22	31	35	231	372
	教育	60	62	12	42	100	276
	芸術	48	38	2	29	52	169
	その他	5	0	9	15	39	68
	小計	241	159	75	137	592	1,204
	九 州	人文	106	2	27	51	115
社会		92	1	13	35	133	274
教養		14	0	11	25	65	115
工業		35	0	8	0	12	55
農業		19	1	0	0	6	26
保健		4	9	0	0	18	31
家政		72	6	31	44	265	418
教育		53	207	26	62	229	577
芸術		24	38	14	11	137	224
その他		85	0	19	33	171	308
小計		504	264	149	261	1,151	2,329
合計	4,853	2,111	1,483	3,028	9,129	20,604	

一般企業関係における地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全国	16,751	14,627	2,124	87.3%
北海道	888	618	270	69.6%
東北	688	507	181	73.7%
関東	2,287	2,105	182	92.0%
東京	3,188	2,896	292	90.8%
中部	3,077	2,867	210	93.2%
近畿	1,893	1,645	248	86.9%
大阪	1,491	1,262	229	84.6%
中国	858	750	108	87.4%
四国	465	399	66	85.8%
九州	1,916	1,578	338	82.4%



## 一般企業関係のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど

### 意見の概要

#### 1. 求人状況について

全体的な傾向としては、①求人の減少・激減(業界はアパレル・製造、職種は事務・販売) ②正規雇用の減少 ③Webでの求人の増加 ④採用試験の回数の増加 ⑤採用が4年制大学へ移行 となっている。ごく一部に上向きや好状況があるものの、ほとんどが短大側・学生にとっては厳しい状況下での就職活動となったことが伺える。

[主な内容]

- ・一般企業からの求人が減っているうえに、採用も厳しい。
- ・求人件数減少と共に1社あたりの求人人数も減少している。短大生が受験できる企業が少ない。
- ・地元企業の求人が少なく、県外企業が大半である。また、地元企業のほとんどが非正規採用である。
- ・一般事務と販売の職種が減少している。
- ・正規採用の求人件数が昨年の半減である。
- ・一般企業からの求人数が激減した。
- ・企業求人件数が半減した。学校推薦企業も半減した。
- ・平成21年は大幅な減少となった。インターネットを使用した求人が増加している。
- ・すぐに正社員というよりは、契約や臨時職員として求人するケースが多くみられるようになってきた。
- ・短大生を対象とする求人が減少し、四大生と同時期・同条件での就職活動になってきた。
- ・企業からの求人票は年々減少の傾向にあり、その中でも大手百貨店などの販売の売上が伸びない状況が続き、販売職などの求人がダメージを受けている。
- ・短大生に限定していた一般職の求人が、大学生も対象にする企業が増えた。
- ・一般職や事務職の求人は欠員補充がほとんどであるのと、学校に求人票を出さずに、インターネットを活用して採用活動を行う企業が増えたため、学校が受けつける求人件数は減少している。
- ・金融機関において採用枠の4大生へのシフト化が顕著。
- ・業種では製造関係の減少が目立ち、職種では一般事務がさらに厳しくなっている。
- ・短大生の正規職員については厳しい面があり、臨時的採用や契約採用の増加が目立つ。
- ・求人件数は昨年より大幅に減少し、企業求人票の送付された勤務先は、首都圏ばかりでとても厳しい。
- ・採用試験回数が増加した。

## 2. 処遇について

地域差はあるが、全体的には給与が低水準(または現状維持でももともと低水準)で正社員としての雇用が減少している。そのような中、地域のヤングジョブセンターと連携して情報を交換・収集するなど、各短大が様々な取り組みを行い、改善しようとする様子が伝わる。

[主な内容]

- ・非正規率の上昇に伴い、年収は減少。
- ・求人票に記載されている内容と、入社してからの待遇が大幅に違う企業がいくつかあった。
- ・非正規雇用による内定者 34 名のうち、非正規雇用から入社しなければ正社員への登用の機会がないという内定者が 33 名を占めており、これらの雇用の拡大によってさらに雇用条件が悪化している。
- ・採用決定者の基本給与 最高=180,000 円 最低=110,000 円
- ・内定率は前年並みとなったが、正社員の採用割合が減り、臨時的な採用が増えた。
- ・1 月以降は緊急雇用対策による求人が増えたが、ほとんどが非正規雇用の求人だった。
- ・基本給は横這いであるが、試用期間が長くなり、その間の給与が時給で、実質的に低下しているところも散見される。
- ・首都圏などの大都市に比べて地方都市の給与は、業種や職種、企業などによりバラつきがあるものの、依然として格差がある。
- ・正社員・職員から契約社員への変化（百貨店・アパレルなど販売・サービス職に多く見られる）。
- ・短大卒業の初任給では東京近辺の自立した生活が難しく、また首都圏以外の求人は多くないため地方出身の学生には厳しいものがある。
- ・給与については例年通り横ばい状況であった。また、住宅手当の支給がない企業が多く見受けられ、自宅外学生を採用対象としない企業が前年度と比較して増加傾向にあった。
- ・基本給金額には大きな変動はないが、住宅手当など諸手当の削減、切り下げが目立っている。独身寮を持たない企業が多く、地方出身者で首都圏就職希望の者にとって、応募先が限定される状況である。
- ・内定者の正社員と契約社員との比率は 8 対 2 で契約社員が増加している。
- ・事務系の給与額が少なめになっている。職種によっては学歴を問わず（大学・短大とも）同額の給与を支給するケースがある。労働条件については職種によって異なるが、営業職などに関しては時間的な拘束が長く、状況は厳しい。
- ・各園の正規職員の給与に関してはそれほど大きな差は無い。だが、非正規職員の給与・賞与のあるなしなどに差が見られる。また、正規・非正規職員の割合は各園によって異なり、何年勤めても正規採用に至らないケースがあり、そこに意欲を失い離職する者もいるようだ。

### 3. 学生の就労意識について

学生の就職活動への取り組み意識についての高いまたは低いことについては『二極化』で最も多く表現されていた。近年の経済状況・就職環境の影響もあるが、学生の育った環境によるところも考えられる。多様な学生に対応するためには、担当者として幅広く柔軟に物事を考え、行っていく必要がある。

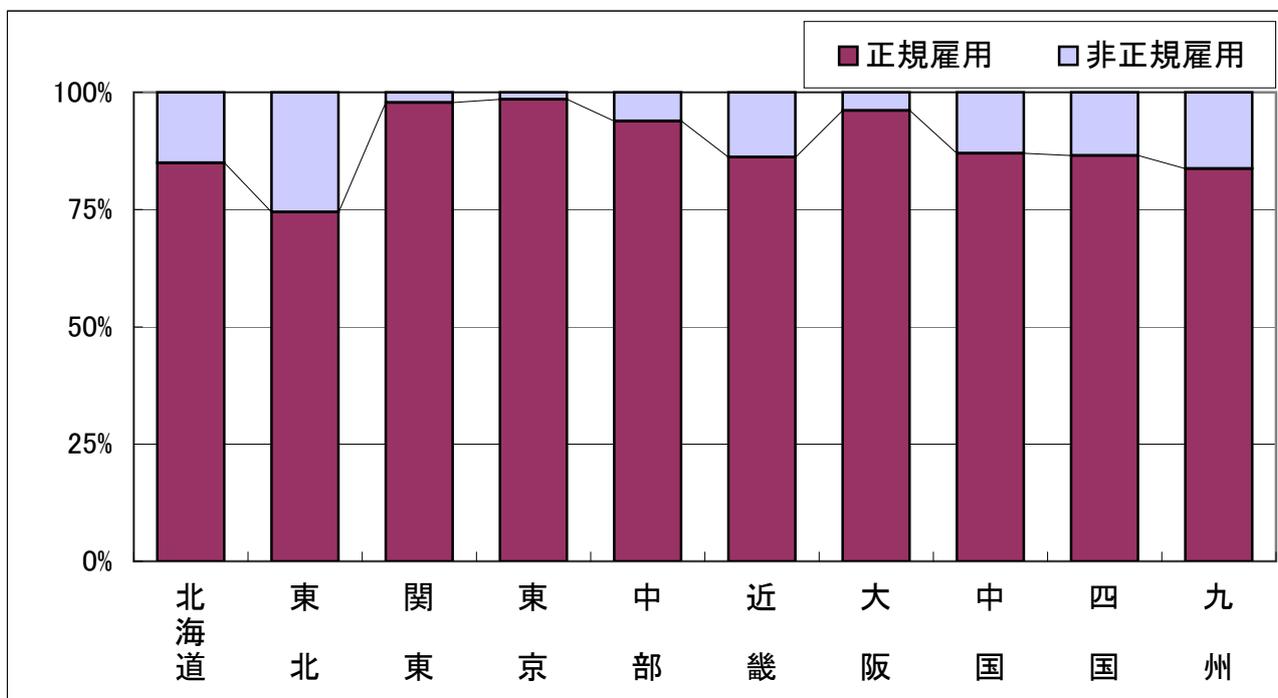
[主な内容]

- ・意欲の減少が著しい。
- ・昨今の雇用情勢の厳しさから、進学する学生が増えた。地元への就労意識が強い。
- ・就職活動が長すぎ、意欲をもってスタートしても中だるみし、精神的なケアが必要になっている。
- ・自ら積極的に就職活動をせず、指示待ちの学生が増えている傾向がみられる。
- ・比較的安易な仕事に就きたがる傾向にある。志望する業種・職種を決定できない学生が多い。
- ・積極的に進路選択への行動を取る層と、卒業後について甘い認識のまま何もしない層に二分化する。
- ・就職難から就職意識の高い学生は増加したが、実際の行動に結びついている学生が増加したとは言えない。意識の低い学生も依然多く、二極化している。正社員へのこだわりは強いが、漠然としている。
- ・就職に対する意識はあるが、一度試験に落ちると諦めてしまう学生が見受けられる。
- ・経済状況の変動に伴い、まず正社員として絶対に就職したい、あるいは就職しなければならぬ状況にある学生も多く、就職への意識は高くなっている。本人はもとより保護者も安定性と福利厚生が充実した企業への就職を考え、特に、自宅から容易に通うことができる範囲での就職を臨む学生が多く見られる。
- ・就労意識は高いといえるが、人間関係に弱い面があり、それが原因で意欲低下をみることはある。
- ・平成 21 年度学生の入学時は、景気もまだ後退に陥っていなかったため、学生の就労意識、就職活動意欲も薄く、出足のスタートで大変苦労した。
- ・自発的に行動できる学生が少ない。自分の希望する職種・業界でなければ応募しないで、フリーター・アルバイトの道を選択する学生が多い。
- ・自分がやりたい仕事（好きな仕事）しか考えられず、希望の幅を狭めてしまう傾向がある。希望の会社から内定がもらえなければ、すぐに活動を止め、就職を諦めてしまう。

- ・自分に自信がなく、一步を踏み出すことができない。親が安易にフリーターを容認しているため、正社員になる意欲に欠ける。
- ・卒業が近づかないと、就職を自分のこととして考えられない学生が散見された。
- ・アルバイトの延長程度にしか考えていない。

幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況（１）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	4,891	4,477	414	91.5%
北海道	266	226	40	85.0%
東 北	270	201	69	74.4%
関 東	1,305	1,277	28	97.9%
東 京	339	334	5	98.5%
中 部	798	749	49	93.9%
近 畿	457	394	63	86.2%
大 阪	541	520	21	96.1%
中 国	208	181	27	87.0%
四 国	104	90	14	86.5%
九 州	603	505	98	83.7%



幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況（２）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	4,891	277	129	148	4,614	4,348	266
	100.0%	5.7%	2.6%	3.0%	94.3%	88.9%	5.4%
		100.0%	46.6%	53.4%	100.0%	94.2%	5.8%
北海道	266	2	0	2	264	226	38
	100.0%	0.8%	0.0%	0.8%	99.2%	85.0%	14.3%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	85.6%	14.4%
東 北	270	19	1	18	251	200	51
	100.0%	7.0%	0.4%	6.7%	93.0%	74.1%	18.9%
		100.0%	5.3%	94.7%	100.0%	79.7%	20.3%
関 東	1,305	49	42	7	1,256	1,235	21
	100.0%	3.8%	3.2%	0.5%	96.2%	94.6%	1.6%
		100.0%	85.7%	14.3%	100.0%	98.3%	1.7%
東 京	339	4	2	2	335	332	3
	100.0%	1.2%	0.6%	0.6%	98.8%	97.9%	0.9%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	99.1%	0.9%
中 部	798	63	35	28	735	714	21
	100.0%	7.9%	4.4%	3.5%	92.1%	89.5%	2.6%
		100.0%	55.6%	44.4%	100.0%	97.1%	2.9%
近 畿	457	60	17	43	397	377	20
	100.0%	13.1%	3.7%	9.4%	86.9%	82.5%	4.4%
		100.0%	28.3%	71.7%	100.0%	95.0%	5.0%
大 阪	541	9	4	5	532	516	16
	100.0%	1.7%	0.7%	0.9%	98.3%	95.4%	3.0%
		100.0%	44.4%	55.6%	100.0%	97.0%	3.0%
中 国	208	33	23	10	175	158	17
	100.0%	15.9%	11.1%	4.8%	84.1%	76.0%	8.2%
		100.0%	69.7%	30.3%	100.0%	90.3%	9.7%
四 国	104	7	2	5	97	88	9
	100.0%	6.7%	1.9%	4.8%	93.3%	84.6%	8.7%
		100.0%	28.6%	71.4%	100.0%	90.7%	9.3%
九 州	603	31	3	28	572	502	70
	100.0%	5.1%	0.5%	4.6%	94.9%	83.3%	11.6%
		100.0%	9.7%	90.3%	100.0%	87.8%	12.2%

## 幼稚園教諭のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど

### 意見の概要

#### 1. 求人状況について（回答数：182）

求人状況は、ほとんどの大学で例年並みの求人状況と回答した大学から、若干の増加傾向にあるところが大半を占めている中で、地域によっては幼稚園数が少ないなどの条件から減少したとの回答もあった。特に男子学生の求人は少ない。

雇用条件では、正規採用が多い中、近年の傾向として一年間は、契約・臨時などの採用形態も少しずつ増加の傾向にある。学生の質的な問題も大きく関わっている状況にある。

また、「認定こども園」への変更に伴う求人も顕著に現れており、保育士と幼稚園教諭の両方の免許状が必要とされている。

特に求人として企業立幼稚園の求人が関東地区に増えて、求人の早期化に繋がっている状況の回答があった。

#### 2. 処遇について（回答数：156）

全体の傾向として、勤務時間が長い割には給与が低賃金の回答が目立った。給与格差も同一県内において2万円程度の開きがある。余分な教諭の採用をしていないため、年休等の休みがもらえないなどの労働環境が悪く職員の定着が悪くなっているなどの複数回答があった。

また、幼稚園に関しては正規雇用が基本であったが、近年「臨時職員」「嘱託職員」など正規雇用とは違う形で採用されるケースも増えてきた。

就職前の処遇として無償での事前研修の長期化があげられており、保険の問題・交通費など学生の負担も増加している。

#### 3. 学生の勤労意識について（回答数：166）

目的学科であるため、就労意識は高いようだが1年目からのクラス運営等の責任や人間関係など不安が多く就労への迷いがあることやピアノの技術が未熟で自信がない、長い時間子ども達と接したいという理由などから保育園での就労に変更する傾向も全国的に広がっている。

メンタル面でも弱い学生が増えているのか、職場で注意を受ける事に慣れていないため、きつく注意を受けることによって離職に繋がるケースが多い。就労意識は高いものの、専門職に就く価値観や使命感が希薄な学生も目立ってきている。

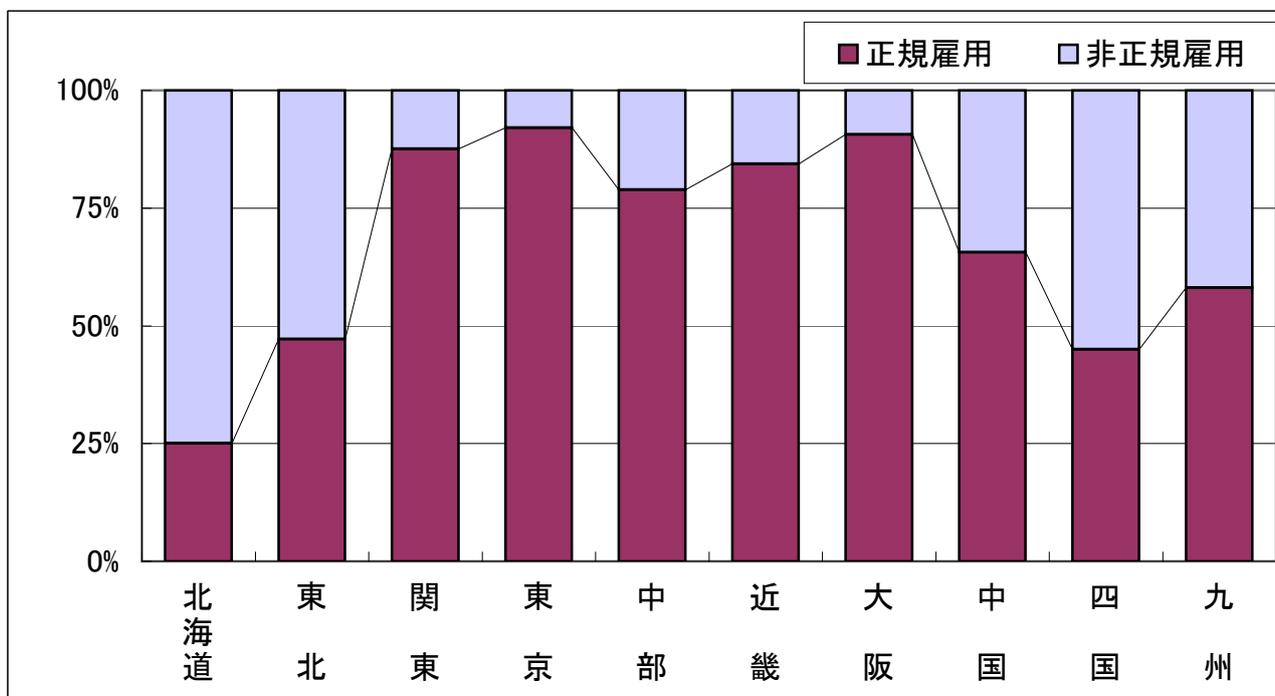
## 幼稚園教諭地域別特徴

地 域	対象回答校数	地 域 の 特 徴
北海道	8 / 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正規雇用が6割、非正規が4割で正規雇用での採用を希望する学生が多い。</li> <li>・ 責任や人間関係の築き等不安が多く、就労への迷いを生じる学生がでている。</li> <li>・ 求人票の初任給格差が2万円以上の格差がある。</li> </ul>
東北	14 / 65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正規採用もある中で、「臨時職員」「嘱託職員」として採用されるケースが多くある。</li> <li>・ 幼保一元化の流れから「幼稚園教諭」「保育士」両方の免許・資格取得を応募条件とする園が増えてきた。</li> </ul>
関東	35 / 65	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内中心部と地方では、給与格差が大きい。</li> <li>・ 幼稚園教諭より保育士を希望する傾向が強い。</li> <li>・ 企業立の求人件数が増加して大量の採用を行っている。</li> </ul>
東京	13 / 45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人件数は非常に多いが雇用形態は多様化している。</li> <li>・ 求人件数が多い。</li> <li>・ 専門職へのこだわりが強い。</li> </ul>
中部	27 / 58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人時期が早まっている。</li> <li>・ 採用試験に実習を取り入れる園が増えてきた。</li> <li>・ 高いレベルの要求があるため(ピアノの技術等)幼稚園教諭を敬遠する学生が増えている。</li> </ul>
近畿	21 / 40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年制大学の増加もあり、短大生には求人が狭き門になってきた。</li> <li>・ 就職1年目は契約職員での採用形式が増えてきた。</li> </ul>
大阪	15 / 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職であるにも関わらず全般的に低賃金で地域格差が大きい。</li> <li>・ 研修期間での処遇があいまいである。</li> </ul>
中四国	22 / 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育士免許を求める園が増加してきた。</li> <li>・ 賃金については少しずつ改善されているものの、以前残業が多い。</li> <li>・ 暗黙の制約として年齢制限がある。</li> </ul>
九州	26 / 41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人数は増加している。</li> <li>・ 試用期間が1年間と長期のものや保険等の加入が半年加入されていない状況などが求人票等に明記されていない。</li> <li>・ 就労意識は高い学生が見られる反面、能力や技量の不足により社会人としての職能意欲低下が見られる。</li> </ul>

※対象回答校数は、求人状況・処遇・学生の勤労意識の3項目の回答で一番多い回答数を数値とした。

保育士の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	12,201	8,970	3,231	73.5%
北海道	403	101	302	25.1%
東 北	983	464	519	47.2%
関 東	2,561	2,244	317	87.6%
東 京	530	488	42	92.1%
中 部	2,054	1,621	433	78.9%
近 畿	1,458	1,231	227	84.4%
大 阪	1,072	972	100	90.7%
中 国	881	578	303	65.6%
四 国	322	145	177	45.0%
九 州	1,937	1,126	811	58.1%



保育士の地域別雇用形態の状況（２）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	12,201	1,494	626	868	10,707	8,344	2,363
	100.0%	12.2%	5.1%	7.1%	87.8%	68.4%	19.4%
		100.0%	41.9%	58.1%	100.0%	77.9%	22.1%
北海道	403	56	15	41	347	86	261
	100.0%	13.9%	3.7%	10.2%	86.1%	21.3%	64.8%
		100.0%	26.8%	73.2%	100.0%	24.8%	75.2%
東 北	983	136	20	116	847	444	403
	100.0%	13.8%	2.0%	11.8%	86.2%	45.2%	41.0%
		100.0%	14.7%	85.3%	100.0%	52.4%	47.6%
関 東	2,561	251	96	155	2,310	2,148	162
	100.0%	9.8%	3.7%	6.1%	90.2%	83.9%	6.3%
		100.0%	38.2%	61.8%	100.0%	93.0%	7.0%
東 京	530	53	41	12	477	447	30
	100.0%	10.0%	7.7%	2.3%	90.0%	84.3%	5.7%
		100.0%	77.4%	22.6%	100.0%	93.7%	6.3%
中 部	2,054	508	276	232	1,546	1,345	201
	100.0%	24.7%	13.4%	11.3%	75.3%	65.5%	9.8%
		100.0%	54.3%	45.7%	100.0%	87.0%	13.0%
近 畿	1,458	138	47	91	1,320	1,184	136
	100.0%	9.5%	3.2%	6.2%	90.5%	81.2%	9.3%
		100.0%	34.1%	65.9%	100.0%	89.7%	10.3%
大 阪	1,072	43	15	28	1,029	957	72
	100.0%	4.0%	1.4%	2.6%	96.0%	89.3%	6.7%
		100.0%	34.9%	65.1%	100.0%	93.0%	7.0%
中 国	881	177	92	85	704	486	218
	100.0%	20.1%	10.4%	9.6%	79.9%	55.2%	24.7%
		100.0%	52.0%	48.0%	100.0%	69.0%	31.0%
四 国	322	49	9	40	273	136	137
	100.0%	15.2%	2.8%	12.4%	84.8%	42.2%	42.5%
		100.0%	18.4%	81.6%	100.0%	49.8%	50.2%
九 州	1,937	83	15	68	1,854	1,111	743
	100.0%	4.3%	0.8%	3.5%	95.7%	57.4%	38.4%
		100.0%	18.1%	81.9%	100.0%	59.9%	40.1%

## 保育士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど

### 意見の概要

#### 1. 求人状況について（回答数：188）

求人については、経済不況の状況下により保育士の求人が増加傾向と回答している大学と同じ地域でも10%～20%の間で減少していると回答している大学があり、大学によって地域によって様々な状況である。

保育士求人の求人時期が遅く保育士を希望しているが学生にとっては待ち時間が長い。求人票の条件と雇用内容が違う場合がある。正規雇用の求人より非正規雇用（契約・臨時・パート等）の求人の方が増加傾向にあるなどの項目は全国の大学が共通して抱えている状況である。それに加え保育士派遣会社からの求人も出始め求人の待遇についての問題点も出てきている事や企業系保育園の参入や認定こども園の増加に伴う幼稚園教諭と保育士資格のダブル免許取得者の採用など今後、新たな求人活動が始まる傾向にある。

#### 2. 処遇について（回答数：173）

地域によっては、正規雇用がほとんどであるとの回答をしている大学もあるが、とりあえず契約で雇用し、1年～3年の契約後に正規採用といった雇用の形態を取りながら学生の就労意識等を確認する園もある。

全国的に見て非正規採用が多く労働条件が安定していない。給与が日給や時給の園も増えつつあるとの回答もあった。給与水準が低く過剰労働が多いため、ワーキングプアの状況となっている。

#### 3. 学生の労働意識について（回答数：172）

学生の労働意識について、資格を活かして就職したいという労働意欲の高い学生と、就職意識が薄くても就職できてしまう状態で意欲もなく就職していく学生の二極化が始まってきたと分析している大学が多くみられた。とりあえず就職していく学生の場合、園の方針が自分と合わない場合や少しでも叱られた場合に「厳しい職場」という評価となり、早期離職に繋がる状況である事が見受けられる。

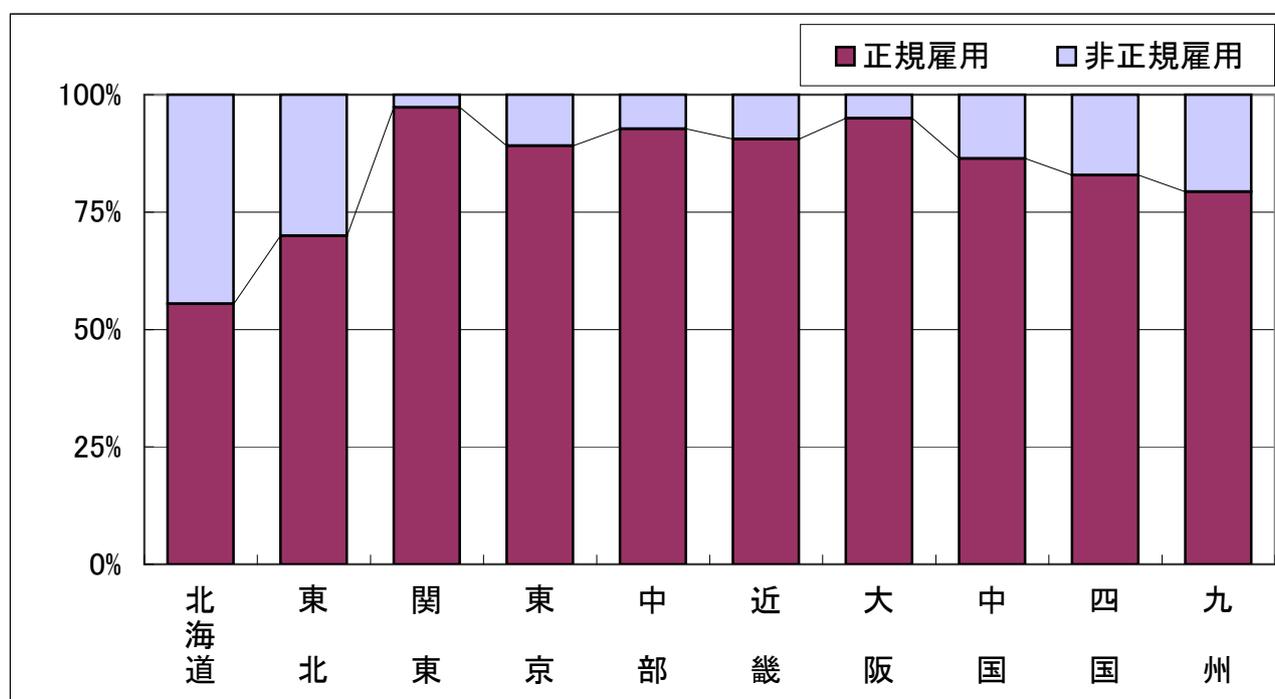
## 保育士地域別特徴

地 域	対象回答校数	地 域 の 特 徴
北海道	9 / 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～3年の契約後、正規採用となるケースが増えてきた。</li> <li>3割が正規雇用で7割が非正規雇用。</li> </ul>
東北	15 / 23	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時採用が多いため給与水準が低い。</li> <li>正規雇用こだわる学生による首都圏での就職を目指す学生数が増えてきた。</li> </ul>
関東	37 / 65	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業経営による保育所運営の増加。</li> <li>就職希望者より求人数が多い。</li> </ul>
東京	11 / 45	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業系保育園の大学訪問による求人依頼も増えている。</li> <li>処遇としては、比較的良好であるが、近年の企業系保育園の同業務内容でありながら給与面で3万円以上の格差がある現状も見られ始めた。</li> </ul>
中部	29 / 58	<ul style="list-style-type: none"> <li>求人が減少したと回答する大学が多く、契約・臨時保育士として採用されるケースが増えてきた。</li> <li>公立保育所の民間委託が増加し公立の保育士採用が減少している。</li> </ul>
近畿	22 / 40	<ul style="list-style-type: none"> <li>年々契約保育士、臨時保育士の求人が増加。</li> <li>地域によって雇用格差はあるが、給与は幼稚園より高い、しかし土曜日保育・延長保育等、職員の就労時間は多様化している。</li> </ul>
大阪	17 / 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>大半は正規採用だが、契約採用や長期試用期間を経て後に本採用になるケースがある。</li> <li>就労規定の記載が曖昧な求人も見られる。</li> </ul>
中四国	23 / 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨時で採用し、数年後に適性を見て正規雇用にする方法が多い。</li> <li>認定こども園が増加している。</li> </ul>
九州	27 / 41	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規雇用の給与に関しては、各園とも大きな格差はないが非正規雇用に関して給与、賞与などに差が見られる。</li> <li>非正規雇用や臨時職員の求人が増加傾向にある。</li> </ul>

※対象回答校数は、求人状況・処遇・学生の勤労意識の3項目の回答で一番多い回答数を数値とした。

栄養士の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	3,091	2,661	430	86.1%
北海道	119	66	53	55.5%
東 北	263	184	79	70.0%
関 東	477	464	13	97.3%
東 京	459	409	50	89.1%
中 部	537	498	39	92.7%
近 畿	191	173	18	90.6%
大 阪	139	132	7	95.0%
中 国	162	140	22	86.4%
四 国	140	116	24	82.9%
九 州	604	479	125	79.3%



栄養士の地域別雇用形態の状況（２）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全国	3,091	63	20	43	3,028	2,641	387
	100.0%	2.0%	0.6%	1.4%	98.0%	85.4%	12.5%
		100.0%	31.7%	68.3%	100.0%	87.2%	12.8%
北海道	119	2	1	1	117	65	52
	100.0%	1.7%	0.8%	0.8%	98.3%	54.6%	43.7%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	55.6%	44.4%
東北	263	11	1	10	252	183	69
	100.0%	4.2%	0.4%	3.8%	95.8%	69.6%	26.2%
		100.0%	9.1%	90.9%	100.0%	72.6%	27.4%
関東	477	18	9	9	459	455	4
	100.0%	3.8%	1.9%	1.9%	96.2%	95.4%	0.8%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	99.1%	0.9%
東京	459	7	1	6	452	408	44
	100.0%	1.5%	0.2%	1.3%	98.5%	88.9%	9.6%
		100.0%	14.3%	85.7%	100.0%	90.3%	9.7%
中部	537	10	2	8	527	496	31
	100.0%	1.9%	0.4%	1.5%	98.1%	92.2%	5.8%
		100.0%	20.0%	80.0%	100.0%	94.1%	5.9%
近畿	191	4	2	2	187	171	16
	100.0%	2.1%	1.0%	1.0%	97.9%	89.5%	8.4%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	91.4%	8.6%
大阪	139	0	0	0	139	132	7
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	95.0%	5.0%
					100.0%	95.0%	5.0%
中国	162	2	0	2	160	140	20
	100.0%	1.2%	0.0%	1.2%	98.8%	86.4%	12.3%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	87.5%	12.5%
四国	140	5	3	2	135	113	22
	100.0%	3.6%	2.1%	1.4%	96.4%	80.7%	15.7%
		100.0%	60.0%	40.0%	100.0%	83.7%	16.3%
九州	604	4	1	3	600	478	122
	100.0%	0.7%	0.2%	0.5%	99.3%	79.1%	20.2%
		100.0%	25.0%	75.0%	100.0%	79.7%	20.3%

## 栄養士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど

### 意見の概要

集計回答校数：96短期大学

## I. 全体の傾向

### 1. 求人状況について

全国的に病院、施設、保育所等からの直接雇用の求人は減少、逆に給食受託会社への就職が増えている回答が多く、総体的にも求人数は減少したとの回答が大半を占めていた。しかし、このような状況にも係わらず学校側の地道な努力結果、求人が増加または前年並みであったと回答した短大も相当数あった。回答が多かった給食受託会社の増加の理由には、学生の地元企業志望が強いために必然的に求人の多い就職先を求めざるを得ない事情も影響していると思われるが、一方で雇用形態も正規採用の求人が減り、また、需要が多い給食受託会社についても契約社員や臨時職員としての採用が顕著になっている。なお、栄養士の求人に四大生（管理栄養士）が応募して、短大の求人枠を侵蝕してきている実態も多くなってきていることは、今後の栄養士就職の課題である。

### 2. 処遇について

全般的に低給与で、重労働であるという回答が多数を占め、例年と比べても処遇改善の方向性を示す回答はほとんどなかった。栄養士という専門職で採用されながら、他の業務（調理、介護等）を担当させられるなど重労働の実態は変わらず、加えて雇用条件も事前に明示されたものと大きく異なるなど待遇面の悪さが目立っている。また、非正規採用者についても、正規採用との処遇の格差は大きく、学生の就業意欲にも大きな影響を及ぼす結果になっている。企業側に対しては、非正規社員から正規社員への登用や管理栄養士を目指す者に対する待遇面の配慮や援助を要望する意見も数校から提起されていた。

### 3. 学生の就職意識について

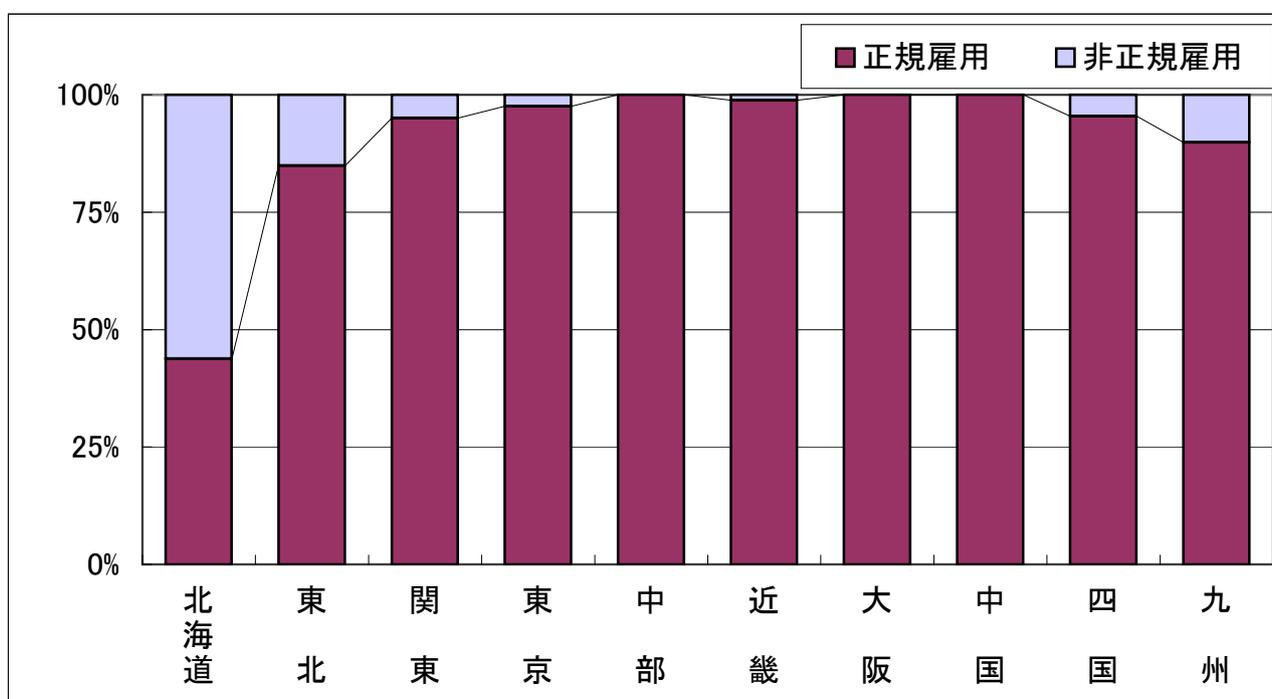
一般企業を志望する学生に比べ、専門職として栄養士を目指す学生や働きながら管理栄養士を目指す学生の就業意識は非常に高いと回答している短大が多かった。しかし、逆に意識は高いが、施設を希望しても採用が少ないため受託会社等へシフトせざるを得ない状況に追い込まれた結果、就職に対する不安を持つ学生が増大している。一方で、就職難から安易に資格職を希望した学生や一般企業が厳しいため栄養士に希望を転換した学生等の中には競争結果によっては意欲を失う者も多く出ているなど、学校側として学生の就職に対するモチベーションの維持のために苦慮している回答が多数あった。

## II. 地域の特徴

地 域	特 徴
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食受託会社等の派遣企業への就職者が多い。</li> <li>・ 北海道内の勤務を希望する者が多いが、処遇は恵まれていない。</li> </ul>
東 北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給食受託会社を含め求人は減少気味であるが、採用は非正規勤務者が主体になっている。</li> <li>・ 処遇は総じて低給与であるため、就労意識にはバラつきがある。</li> </ul>
関 東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人数に大きな変動はなく、資格を活かした就職がし易い環境にある。</li> <li>・ 委託給食会社の処遇等は悪化傾向にある。</li> <li>・ 就職環境が厳しいため、栄養士としての意識が高い学生と逆に意識が希薄化している学生に二極化している。</li> </ul>
東 京	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人については、変化なし、増加、減少と短大によってバラつきがあるが、採用には特に問題は生じていない。</li> <li>・ 処遇は給与も低く、待遇面も悪く、改善の要素は見受けられない。</li> <li>・ 資格を活かした就職希望者が多く、全般的に就業意識は高い。</li> </ul>
中 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直営施設の求人は減少傾向で、委託会社の求人は比較的安定している。</li> <li>・ 職務、業務に照らし処遇はあまり良くなく、処遇改善は見られない。</li> <li>・ 栄養士として専門職意識が高い就職希望者が増えてきている。</li> </ul>
近 畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人数は各校で変動はあるが、全体としては安定している。しかし、委託給食会社が主流で、直営施設からの募集は少ない。</li> <li>・ 資格を活かした就職希望者が多く、就労意識は高いが、一部に就労環境の厳しさで栄養士を敬遠する動きがある。</li> </ul>
大 阪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 求人の状況は、各短大で増減にバラつきがある。</li> <li>・ 専門職としては、他の職種に比べ低賃金である。</li> </ul>
中国・四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直営施設の求人は減少、委託会社の求人は増加している。</li> <li>・ 長時間勤務や重労働など厳しい労働条件に加え、低給与である。</li> <li>・ 専門職就職希望が目立ち、働きながら管理栄養士を目指す学生も多いが、逆に資格を活かさない学生も増えている。</li> </ul>
九 州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 派遣型求人が主流で、病院・施設等の直接雇用は減少している。</li> <li>・ 全体的に低給与であり、労働条件も決して良好とは言えず厳しい。</li> <li>・ 栄養士としての就労意識は高いが、待遇面から栄養士として就職しない学生も増えている。</li> </ul>

介護福祉士の地域別雇用形態の状況（１）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	1,590	1,502	88	94.5%
北海道	32	14	18	43.8%
東 北	192	163	29	84.9%
関 東	304	289	15	95.1%
東 京	82	80	2	97.6%
中 部	367	367	0	100.0%
近 畿	169	167	2	98.8%
大 阪	141	141	0	100.0%
中 国	49	49	0	100.0%
四 国	66	63	3	95.5%
九 州	188	169	19	89.9%



介護福祉士の地域別雇用形態の状況（２）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	1,590	24	19	5	1,566	1,483	83
	100.0%	1.5%	1.2%	0.3%	98.5%	93.3%	5.2%
		100.0%	79.2%	20.8%	100.0%	94.7%	5.3%
北海道	32	6	1	5	26	13	13
	100.0%	18.8%	3.1%	15.6%	81.3%	40.6%	40.6%
		100.0%	16.7%	83.3%	100.0%	50.0%	50.0%
東 北	192	0	0	0	192	163	29
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	84.9%	15.1%
					100.0%	84.9%	15.1%
関 東	304	1	1	0	303	288	15
	100.0%	0.3%	0.3%	0.0%	99.7%	94.7%	4.9%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	95.0%	5.0%
東 京	82	0	0	0	82	80	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	97.6%	2.4%
					100.0%	97.6%	2.4%
中 部	367	13	13	0	354	354	0
	100.0%	3.5%	3.5%	0.0%	96.5%	96.5%	0.0%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
近 畿	169	0	0	0	169	167	2
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	98.8%	1.2%
					100.0%	98.8%	1.2%
大 阪	141	0	0	0	141	141	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
中 国	49	0	0	0	49	49	0
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
四 国	66	3	3	0	63	60	3
	100.0%	4.5%	4.5%	0.0%	95.5%	90.9%	4.5%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	95.2%	4.8%
九 州	188	1	1	0	187	168	19
	100.0%	0.5%	0.5%	0.0%	99.5%	89.4%	10.1%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	89.8%	10.2%

## 介護福祉士のここ1～2年の傾向や対応に苦慮していることなど

### 意見の概要

#### ○求人状況

人材確保に困難を感じている福祉施設が多くあることから、全体的に求人は多く、ほぼ正規採用であるとの回答がほとんどであった。また、地元求人もちろんであるが、より多くの需要を抱えている大都市圏からの求人が多数寄せられている様子が伺えた。

一方で、施設整備が一定水準以上になったことから求人数や求人件数の減少が見られたとの回答も一部にあった。特に愛知県内の短大で目立っていた。

#### ○処遇

福祉施設ごとに基本給の見直しなどの処遇の改善が見られ、企業の処遇が悪くなっていることもあり、かつてほどの差はなくなってきたとの報告がある一方で、地域によっては相変わらずあまり良いとは言えない状況のところもあるようである。

「正規・非正規」については、非正規雇用がまだ多いとの回答のあった地域も一部にあるが、全体的には正規雇用のところがほとんどであった。

#### ○就労意識

就労意識については、ほとんどが「高い」という回答であった。

同県内であっても正反対の回答が寄せられているところもあり、各校の置かれている状況や姿勢・考え方などの取り組み上の問題も反映しているように思われる。

#### \*\*介護福祉士以外の介護職求人の状況

求人件数・求人数ともに全体的に多い状況である。処遇面等については、人材確保のため改善も見られるが、介護福祉士資格を有しないということから一般に給与は低めである。

就職してから訪問介護員2級研修を受講させたり、介護職として定められた期間を過ぎた者には介護福祉士国家試験を受験させて資格を取らせるなどの体制はとられているようである。

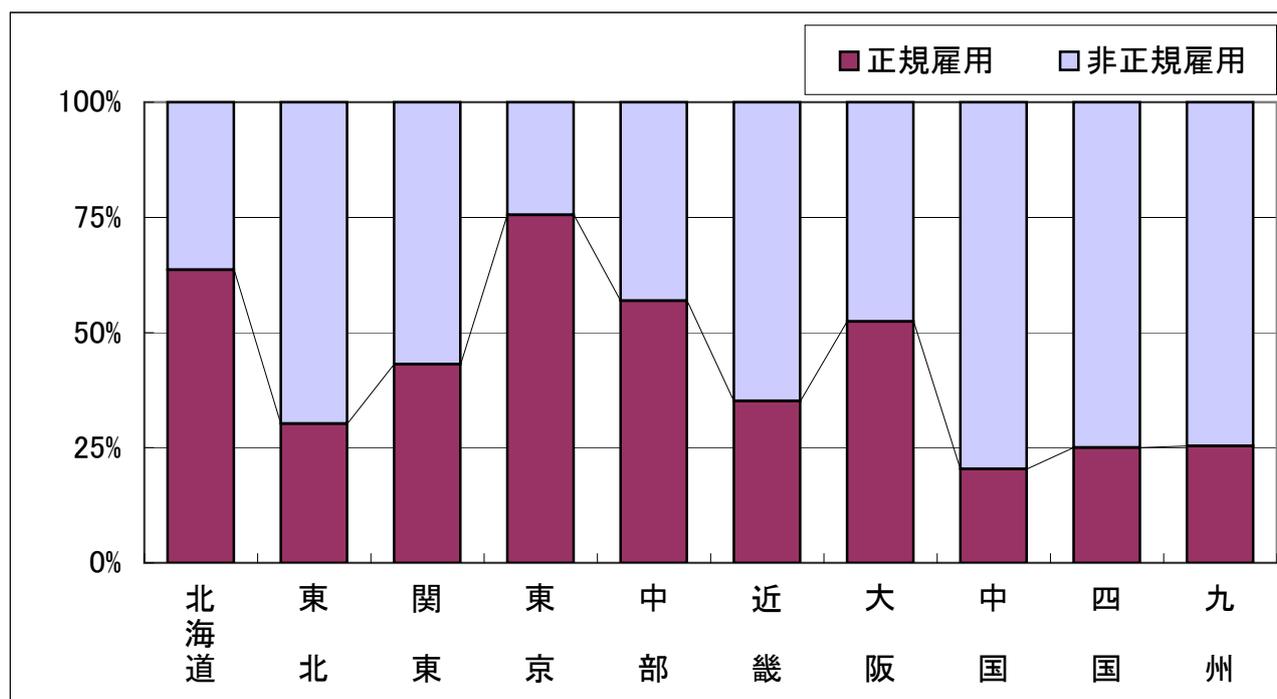
その他の国家資格を必要とする専門職の雇用形態の状況

専 門 職 名	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
小 学 校 教 諭	124	35	89	28.2%
中 学 校 教 諭	31	3	28	9.7%
養 護 教 諭	100	9	91	9.0%
栄 養 教 諭	3	0	3	0.0%
特別支援学校教諭	6	0	6	0.0%
図 書 館 司 書	48	0	48	0.0%
看護師・准看護師	1,172	1,166	6	99.5%
臨床検査技師	179	165	14	92.2%
臨床工学技師	8	8	0	100.0%
理学療法士	37	37	0	100.0%
診療放射線技師	44	42	2	95.5%
歯科衛生士	728	726	2	99.7%
歯科技工士	59	59	0	100.0%
調 理 師	93	79	14	84.9%
製菓衛生師	56	54	2	96.4%
美 容 師	200	200	0	100.0%
自動車整備士	541	541	0	100.0%
計	3,429	3,124	305	91.1%

## 公務員の地域別雇用形態の状況

注)本公務員は、一般行政職、学校事務職、自衛官、消防士等に就いた者を指します。

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
北海道	33	21	12	63.6%
東北	43	13	30	30.2%
関東	58	25	33	43.1%
東京	45	34	11	75.6%
中部	58	33	25	56.9%
近畿	37	13	24	35.1%
大阪	21	11	10	52.4%
中国	49	10	39	20.4%
四国	20	5	15	25.0%
九州	67	17	50	25.4%
計	431	182	249	42.2%



〔調査票〕

整理番号

1

平成21年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査

記入しないでください

日本私立短期大学協会  
就職問題委員会  
(提出締切期日 平成22年5月28日)

短大名					記入者氏名					就職関係部署名					
短大所在都道府県名	電話番号(代表)				就職関係部署直通	TEL					FAX				
											1 職員のみで構成 2 職員・教員で構成 ※該当する番号を○で囲んでください。				

\* 記入上の注意をご一読のうえ、貴学の平成21年度卒業生の分野別就職希望者数・決定者数・就職以外の進路者数・卒業者数をご記入ください。

分野別学科名	1.人文	2.社会	3.教養	4.工業	5.農業	6.保健	7.家政	8.教育	9.芸術	10.その他
当該設置学科名 (出身学科名)										
就職希望者数										

就職決定者数 (a)										
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	雇用形態	正規雇用		非正規雇用		正規雇用		非正規雇用		正規雇用		非正規雇用		正規雇用		非正規雇用		正規雇用		非正規雇用		
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規			
(a) 就職決定者数の内訳	一般企業																					
	公務員(行政職)																					
	幼稚園教諭	公立																				
		私立・民間																				
	保育士	公立																				
		私立・民間																				
	栄養士	公立																				
		私立・民間																				
	介護福祉士	公立																				
		私立・民間																				
その他の国家資格を有する専門職 ( )																						
( )																						
( )																						

就職以外の進路者数	進学者	四年制大学への編入学者																			
		短大専攻科への進学者																			
		専修・各種学校等への入学者																			
		一時的な仕事に就いた者																			
		その他(上記以外の者)																			
		計 (b)																			

卒業者数	a+b																				
------	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2

短期大学名		短大所在 都道府県名	
-------	--	---------------	--

◎下記の項目について、ここ1～2年の傾向として特にお気付きのこと、対応に苦慮していることなどありましたら、具体的にお書きください。

一般企業関係(専門職養成学科の一般企業希望者も含む)

求人状況について	
処遇について	
学生の就労意識について	

専門職関係

幼稚園教諭	求人状況について	
	処遇について	
	学生の就労意識について	

保育士	求人状況について	
	処遇について	
	学生の就労意識について	

栄養士	求人状況について	
	処遇について	
	学生の就労意識について	

介護福祉士	求人状況について		介護職 (介護福祉士以外)
	処遇について		
	学生の就労意識について		

○ 貴学の就職支援に関して、学生の就労意識あるいは就職率向上のためのあらたな取組みなどありましたら、お聞かせください。

○ 同封の『短期大学卒業生の就職環境改善のための提案』について、具体的にどのような活動を行うことが望ましいと思われますか。

※上記「提案書」は、本協会サイト (URL: <http://www.tandai.or.jp/kyokai/>) 内の「就職問題委員会」のページに掲載しています。  
 \*\*\*ご回答ありがとうございました。お手数ですが、調査票の1と2を重ねて(留めずに)、来る5月28日までに郵送にてご返送ください。

## 〈調査票1への記入上の注意〉

下記の内容をご確認のうえ、ご記入ください。

1. 各項目・各分野における人数は、平成22年5月1日現在の本科 **第1部(昼間部)** の状況をご記入ください。 **専攻科は対象外です。**
2. 分野別学科名については、同封別紙「分野別学科一覧」表を参照してください。
3. 当該設置学科名については、卒業生の出身学科名をご記入(タテ書きでも結構です。)ください。(学科名称のみで、専攻名は不要。)
4. 各欄に記入する人数は、同一分野で2学科以上を開設している場合、その合計数をご記入ください。  
(例:食物栄養科と生活科学科を開設の場合は、「家政」欄の「当該設置学科名」欄にそれぞれの名称を記入し、以下の欄に合計人数を記入。)  
また、1つの学科に複数の専攻を開設している場合は、当該学科の分野を確認し、すべての専攻の人数を合計してご記入ください。  
(例:生活学科に食物栄養専攻、介護福祉専攻、幼児教育専攻を開設している場合、「家政」欄に学科名称を記入し、以下の欄に3専攻の合計人数を記入。)
5. 各分野別の就職決定者数 (a) の内訳として、一般企業・公務員(行政職)・専門職の別に、正規雇用/非正規雇用の人数をご記入ください。  
注1) 「公務員(行政職)」欄には、一般行政職、公立学校事務、消防士、自衛官、警察官等の職に就いた者の人数をご記入ください。  
なお、公立の資格免許職として、幼稚園教諭、保育士、栄養士、介護福祉士の職に就いた場合は、各専門職の公立の欄にご記入ください。  
2) 専門職については、資格を生かして就職した人数をご記入ください。  
専門職の有資格者であっても、資格を生かした職業に就いていない場合は、雇用主の状況に応じて、一般企業もしくは公務員欄にご記入ください。  
また、例えば、保育士として一般企業に就職した場合は、専門職・保育士の私立・民間の欄にご記入ください。  
3) 介護福祉士以外の介護・福祉に関する専門職として、介護員や支援員などの名目で、介護施設や福祉施設に就職した場合は、一般企業の欄に含めて記入してください。  
4) その他の専門職とは、国家資格を必要とする職業《小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、司書補、看護師、准看護師、臨床検査技師、臨床工学技師、理学療法士、診療放射線技師、歯科衛生士、歯科技工士、美容師、調理師、製菓衛生師、自動車整備師》等を示します。( )内に具体的職名を記して、当該人数をご記入ください。  
5) 短期大学では取得できない国家資格を有する者が貴学に入学し、就職する際、すでに取得していた資格を生かして就職した場合には、雇用主の状況に応じて、一般企業もしくは公務員欄にご記入ください。
6. 非正規雇用は、派遣社員・契約社員・臨時採用等で、雇用期間が一年以上(一年未満であっても、継続により一年以上雇用されることが確実な者を含みます。)であり、かつ勤務形態が正社員に準ずるものの人数をご記入ください。
7. 就職以外の進路者数の中の「一時的な仕事に就いた者」とは、主にアルバイト・パートの臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいいます。  
なお、派遣社員・契約社員などでも、契約内容が不明な場合には、この欄にご記入ください。
8. 卒業者数は、就職決定者数の合計(a)と就職以外の進路者数の合計(b)を足し合わせた数になります。

## 〈お願い〉

○調査票 1 の集計に際し、不明な点が確認された場合には、ご記入いただいた方あてにお問合せをさせていただくことがありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

○お手数をおかけいたしますが、本調査票の 1 と 2 を重ねて(留めずに)、来る5月28日までに郵送にてご返送ください。

(送付先: 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 日本私立短期大学協会「就職問題委員会」係)



⑦ 家政関係	⑧ 教育関係	⑨ 芸術関係	⑩ その他
栄養(学)科	医療保育科	アート・デザイン学科	キャリア開発学科
栄養健康学科	健康・スポーツ学科	音楽(学)科	キャリア開発総合学科
家政(学)科	健康スポーツコミュニケーション学科	音楽総合科	キャリアコミュニケーション学科
家政経済科	現代幼児学科	芸術(学)科	キャリアデザイン学科
環境文化学科	子(こ)ども学科	造形学科	キャリアプランニング科
くらし環境学科	子ども教育学科	造形芸術(学)科	経営総合学科
健康栄養学科	こども保育学科	造形美術科	現代総合学科
健康生活学科	初等教育(学)科	デザイン(学)科	コミュニティ子ども学科
健康文化学科	児童教育(学)科	デザインアート学科	コミュニティ生活学科
現代生活学科	児童総合学科	デザイン美術(学)科	コミュニティ総合学科
食生活学科	総合保育学科	表現芸術学科	コミュニティ文化学科
食物(学)科	体育(学)科	美術(学)科	生活デザイン総合学科
食物栄養(学)科	地域保育学科	美術(・)デザイン(学)科	総合文化学科
食物科学科	乳幼児保育学科	美容芸術学科	地域総合科学科
住居学科	保育(学)科	美容ファッションビジネス学科	地域総合文化学科
製菓学科	保育創造学科		人間総合学科
生活(学)科	保健体育学科		ライフデザイン総合学科
生活科学(学)科	養護教育(学)科		ライフプランニング総合学科
生活環境学科	幼児教育(学)科		コミュニティデザイン学科
生活芸術科	幼児教育(・)保育(学)科		テクノプランニング学科
生活創造(デザイン)学科	幼児・児童教育学科		
生活造形学科	幼児保育(学)科		
生活デザイン(学)科			
生活福祉(学)科			
生活福祉情報科			
生活文化(学)科			
生活プロデュース学科			
総合生活学科			
総合生活デザイン学科			
人間環境学科			
人間生活学科			
被服(学)科			
美容生活文化学科			
ファッション総合学科			
ファッションデザイン学科			
ファッション表現学科			
服飾(学)科			
服飾芸術科			
服飾造形学科			
服飾デザイン学科			
服飾美術(学)科			
服装学科			
ヘルスクエア栄養学科			
ライフデザイン学科			
生活情報・福祉学科			